

■欧州：主要3カ国の2008年CO2排出量実績が発表される

英国、フランス、ドイツの各政府は2010年2月に入り、相次いで2008年のCO2排出量の実績を発表した。英国エネルギー・気候変動省（DECC）の発表によると、同国の2008年のCO2排出量は5億3,280万トンとなり、前年比で1,080万トン減（2.0%減）であった。DECCは排出量減少の要因として、発電用燃料で石炭からガスに転換されたことともに、産業部門と道路輸送部門における化石燃料の消費の減少を挙げている。一方、フランス・エコロジー・エネルギー・持続開発省（MEEDDAT）によると、フランスの2008年CO2排出量は5億2,700万トン、前年比320万トン減（0.6%減）であった。MEEDDATは排出量減少の要因として、道路運輸部門における交通量の減少によって前年比4.5%減となったことが挙げられている。また、産業部門は前年比3.8%減となったが、これは金融危機が影響していると考えられている。そして、ドイツ連邦環境省（BMU）が発表した同国の2008年CO2排出量は8億3,310万トン、前年比810万トン減（1.0%減）となった。部門別では、エネルギー部門が再生可能エネルギーの導入などによって前年比で約2,000万トン減となった。なお、BMUでは、金融危機の影響は2008年の実績に大きなインパクトが出なかったものの、2009年実績には影響が出るかもしれないと見ている。